

水ジャーナリスト 橋本 淳司^{じゅん じ}さん



北京市の水源地のダムは湖底が見えるほど水が少ない

アクアスフィア
橋本淳司事務所

Website
<http://www.aqua-sphere.net/>

E-mail
welcome@aqua-sphere.net



今、自らが手にしている水の素晴らしさを知り、
問題解決は広い視野をもって取り組む

豊かな水源に恵まれた両毛地域。一見水問題とは無縁のように思われるこの両毛地域も、視点を日本、アジア、地球と移してゆくと、決して無縁ではないことに気がつく。

館林市在住の水ジャーナリストの橋本淳司さんは、国内の水道水の味の違いを調べたことをきっかけに、水の取材を国内外で行い、日本に紹介してきた。しかし、1995年パキスタンを訪れ、上下水道の不備など水不足が原因で亡くなる子どもを目の当たりにし、取材の対象を「水問題」に移した。現在、水について研究・顕彰し、各地の教育機関、企業などに情報提供し、水問題についての講義を行っている。

「現在の水問題の主なものに『水不足』『汚染』『循環の変化』があります。食料自給率の低い日本では、食材の輸入先の状況が、大きく関わってきます。また『2025年には世界の人口の半数が水で苦しむ』という予測が囁かれています。しかし、この問題は決して解決できないものではなく、今から15年後の世界に生きる、現在の子どもたちに水の問題を教え、未来に希望がもてるようにしたいと考えています。」

橋本さんは、今年1月～5月まで、

節水リーダー育成のため、水不足が深刻化している中国を訪れた。そこで彼等が求めているものが、水質を改善するための「技術」である事を知り、水問題の根本をどう理解してもらうか思案したという。二時的な技術投入は、根本的な解決には至らず（政策）技術＜教育＞の3つが全て揃って初めて問題解決の糸口が見えてくるのである。しかし中国の場合、節水リーダー育成の中で、彼等自身が問題の本質に気づき、22人ものリーダーが誕生したそうだ。

「また、日本で最近頻繁に起きている土砂崩れや河川の氾濫ですが、これは『森が荒れている』ことの現れです。森に木々がしっかりと根付き、正しく水が循環していれば、避けられたかもしれないのです。護岸工事より、先に森の手入れをするべきです。」

「人が生きるためには1日2リットルの飲み水が衛生的に生活するためには、10リットルの水が必要です。世界中の人々が生きるための水を手にすることができるよう、水に恵まれた私たちが、水のある心地よさを人々に伝え、自然を守らなければいけないと思うのです。」

水は万人のもの、市民すべてで守る意識をもつべきなのだ。